

# 視察・研修等報告書

平成30年2月7日

北上市議会議長 高橋 穂 至 様

北上市議会議員  
八重樫 善 勝



次の 視察・研修 について結果を報告します。

期間（期日）	平成30年1月29日（月）から 1月30日（火）まで
視 察 先	
視 察 内 容	
研 修 先	TKP東京八重洲カンファレンスセンター(中央区船1-7-1 円ビル)
研 修 事 項	① 子どもの貧困対策特別講座 受講 (1月29日) ② 教育改革特別講座 受講 (1月30日)
参 加 者	八重樫 善 勝
内容及び所感	① 講師の樋渡啓祐氏は2005年佐賀県武雄市長になる前は、総務省大臣官房秘書課長補佐のキャリアで退職したこともあってか、いつも市議会と激突していたというところから講座が始まった。武雄市の子どもの貧困対策は、貧困率が上昇するなか孤立化を断ち切り地縁のつながりを創造し、偏差値ではなくプログラミング教育を行い、論理的思考を育て未来を生き抜く力を身につけ自立できる子どもを育むということらしい。そのため、行政では名は体を表すということで「こどもの貧困対策課」(兼や併)や「子どもの貧困対策ワーキンググループ」など、より横断的・多面的な組織体制づくりをし、貧困対策課には市役所のエースを登用する。また、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」の官公民の連携に基づいて貧困児の朝食をタニタと共同で調査することや、議員が貧困関連の給付・貸付のリーフレットを持ち地区廻りをするなどなどの取り組みがなされている。さらに妊娠期から民生委員が寄り添うなど進学までの伴走型支援をおこなうことで、いま武雄市に移住する人が増えてい

る。このことは、北上市でも学校教育機関にいる子どものみならず、もっと早期からの対策を構築しなければならないことを示唆しているのではないか。

② 武雄市では、教育改革ではなく教育革命を行っている、と樋渡氏は言っていた。人口・小中学校数・児童生徒数など北上市のほぼ半分という規模。「生きる力」を育てるため、武雄市ではICT教育に取り組んでいる。タブレットを全児童生徒（4,703名）に、また電子黒板の整備率は普通教室では、100%を越している。北上ではあまり人気がない電子黒板なので、なぜ全学級に導入したのかという問いに、笑い話のような答えが返ってきた「アイパッドだけでは児童が下を向いてばかりなので、電子黒板を併用する … 」とのこと、多分冗談だと思うが。武雄市の教育改革で、スマイル学習（School Movies Innovate the Live Education の頭文字）、というものがある。先生の動画によって教室がより革新する授業をということで、教育委員会内にスマイル学習課がある。子どもが何処がわからないのか、これまでは教師等の勤だったのが、IPで何処がどう解らないのかが分かる（しかもデータ化ができる）のだそうだ。教師が子どもの実態をより正確に把握して、より個に寄り沿った教育を実践できるということだ。それは児童生徒のアンケート結果にも表れている、「動画の内容はわかりましたか？」の問いに、「分からなかった」という答えが、誰であるか瞬時に分かり、個別指導ができるというサイクルができるというもの。だからといって行政当局が全ての施策に対応できるわけでもない。効果が期待できない政策への配分を削り、より効果が期待できる政策へ配分を厚くすることが重要となる、言い古されたことだが、「選択と集中」に収斂されるということか。また、市民に政策の数値目標を明確にして行くことが、とても大事ではないかと思われた。多方面にわたり有意義で驚きの特別講座であった。

# 視察・研修等報告書

平成30年2月19日

北上市議会議長 高橋 穂 至 様

北上市議会議員  
八重樫 善 勝



次の 視察・研修 について結果を報告します。

期間（期日）	平成30年2月8日（木）から 2月8日（木）まで
視 察 先 視 察 内 容	
研 修 先 研 修 事 項	TKP東京八重洲カンファレンスセンター（中央区橋1-7-1 戸ビル） ① 人口減少時代の新しい課題 受講 （2月8日）
参 加 者	八重樫 善 勝
内容及び所感 ① 講師の山中俊之氏は東大法学部卒、外務省対中東外交などを担当、その後日本総研に転じ2010年独立、株式会社グローバルダイナミクス設立、公務員人事制度の問題点に取り組み、現在は大阪市の特別顧問。 自治体の女性職員が活躍できる職場環境、人口減少時代の人件費の在り方、分限処と懲戒処分の違い、再雇用職員と天下りの問題点、職員の公募の方法と問題点など多岐にわたっていたが、「今、人件費に切り込む質問のポイント」が中心のセミナーであった。自治体での女性職員活躍のために必要な視点としては、属性ではなく職務とそのため能力・適性を重視することが大事だが、今の日本ではなんとなくポストがあって、職務主義ではなく属性であるため難しいテーマである。また肉体労働、深夜、災害対応などが男性職員に偏りがちであるが是正すべきとしている。自治体も女性活躍推進法の対象団体になっていることから、女性の活躍に関する状況把握・課題分析、その課題を解決するに相応しい数値目標と取り組みを盛り込んだ行動計画の策定・周知・公表、また	

女性の活躍に関する情報の公開を行わなければならないことになっているが、あまり耳にしたことがないように感じる。女性活躍のための研修や講演が多数実施されており、東京都庁の勤務時間の選択や佐賀県庁での在宅勤務などで、子育てや家事と職務の両立が進んでいる事例が紹介された、これら事例からすると北上市での取り組みは、まだまだという気がした。

# 視察・研修等報告書

平成30年2月19日

北上市議会議長 高橋 穂 至 様

北上市議会議員  
八重樫 善 勝



次の 視察・研修 について結果を報告します。

期間（期日）	平成30年2月9日（金）から 2月9日（金）まで
視 察 先	
視 察 内 容	
研 修 先	早稲田大学キャンパス 大隈記念タワー（新宿区早稲田鶴巻516-1）
研 修 事 項	① 地域公共交通の基礎知識 受講（2月9日） ② 地域公共交通を守る工夫の様々な実例 受講（2月9日）
参 加 者	八重樫 善 勝
内容及び所感 ①② 講師の伊原雄人氏は早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科を満期退学、早稲田大学環境総合研究センター招聘研究員。現在早稲田大学スマート社会技術融合研究機構所属。研究成果の社会実装を目的に電動バスや燃料電池車輛の開発から社会実証を通し、それらを活用した地域公共交通の政策立案に携わっている。伊原氏は、車は大好きだが、自動車免許を持っておらず、またものすごい乗り物酔いをするとのこと。よって、誰よりも我がこととして「地域公共交通」を考えていると話していた。現在、居住地等の郊外への拡大や高齢化社会などもあり（高齢化による徒歩圏の縮小と免許返納・不所持の層の増加により）、また路線バスなどの不採算路線の廃止などもあって、かつてと違い中心市街地・商業地と郊外住宅地を結ぶ公共交通が負のスパイラルに陥っている。公共交通のサービス低下（路線縮小、運賃値上げ）、そのことにより更に公共交通利用者の減少を招き、公共交通空白地の深刻な状況を作り出している。地域公共交通に求められる役割は、地域住民の移動手段的	

確保、まちの賑わい創出や健康増進、人の交流の活発化などがあげられている。

改正地域公共交通活性化・再生法には、それぞれ国、県、市町村、公共交通事業者の努力義務があり、市町村は、「…主体的に持続可能な地域公共交通網の形成に資する地域公共交通の活性化及び再生に取り組むよう努めなければならない」とされている。地域公共交通を守る工夫の様々な実例として、北九州市、愛知県瀬戸市の例が紹介されたが、地域特性、人口・高齢化率・世帯数、などにより効率的な事業の確保が検討されている。この中で乗り合いタクシーの運行比較で岩手県の雫石町が農村型で掲載されていた。北上市においては、冬季の積雪や空白地面積や空白地人口も加味して考えなければならないと思慮される。いずれにしても、まちづくりや観光振興等の地域戦略と一体となった公共交通の再編が必要と感じた。最後に、公共交通会議に来る偉い人は、バス（公共交通）を利用しないで自車（高級車）で来る、市民は偉い人より乗る人を必要としている。長良川鉄道郡上八幡駅の乗車券発券機に書かれてある「百回の陳情よりも一回の利用」というロゴが印象的で、有意義なセミナーであった。